

## 会場のご案内

大阪会場

2019 1/26 (土) 12:55 ~ 17:20 (受付 12:00 ~)

**ハービスHALL(ハービスOSAKA B2F)**  
〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービスOSAKA B2F

## アクセス

- 阪神梅田駅(西改札)より徒歩6分
- 地下鉄四つ橋線西梅田駅(北改札)より徒歩6分
- JR大阪駅桜橋口より徒歩7分
- JR東西線北新地駅(西改札)より徒歩10分
- 地下鉄御堂筋線梅田駅(南改札)より徒歩10分
- 地下鉄谷町線東梅田駅(北改札)より徒歩10分



## 対象

学校の教員、教育委員会および自治体の職員

※定員になり次第、受付終了とさせていただきます。

## 主催

一般社団法人日本教育情報化振興会

## 共催

日本教育工学協会

後援  
(予定)

文部科学省、総務省、経済産業省、大阪府教育委員会、京都府教育委員会、兵庫県教育委員会、奈良県教育委員会、和歌山県教育委員会、滋賀県教育委員会、大阪市教育委員会

## 協力

Sky株式会社

## 詳細・お申し込み

下記のWebページからお申し込みいただけます。または『参加申込書』にご記入の上、FAXでお申し込みください。

<https://www.sky-school-ict.net/>

## お問い合わせ先

「学校とICTフォーラム」事務局(Sky株式会社内)

〒532-0003 大阪市淀川区宮原3丁目4番30号 ニッセイ新大阪ビル20F  
TEL : 06-4807-6374 FAX : 06-4807-6376 E-mail : seminar@sky-school-ict.net  
※一般社団法人日本教育情報化振興会は、本セミナーの協力企業であるSky株式会社にセミナー事務局を委託しています。

# 学校とICT フォーラム

大阪

2020へ向けて

教育の情報化における  
現状の課題への対策

## 日程

2019 1/26 (土) 12:55 ~ 17:20 (受付 12:00 ~)

## 場所

ハービスHALL(ハービスOSAKA B2F)

〒530-0001 大阪市北区梅田2-5-25 ハービスOSAKA B2F

参加無料

# 学校とICTフォーラム

大阪

2020へ向けて 現状の課題への対策

**プログラム** 前半(Aコース、Bコース)、後半(Cコース、Dコース)それぞれ、どちらかのコースを選択してご参加いただきます。

12:00	受付開始				
12:55	開会挨拶	一般社団法人日本教育情報化振興会			
13:00~ 13:25	基調講演	<b>新学習指導要領における情報活用能力</b> 中川一史(放送大学教授)			
		<b>Aコース</b>			
13:25~ 14:10	特別講演 ①	<b>新学習指導要領と授業改革 — 問われる教科の授業づくりと「知識」の意味</b> 久野 弘幸(名古屋大学准教授)			
14:25~ 15:30	情報教育 ①	<b>教科指導の中で情報活用能力をどのように育むか</b> 新学習指導要領では、「情報活用能力」を「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、教科横断的に育成する旨が明記されています。各学校が設定する教育目標を実現するために、どのような教育課程を編成し、どのようにそれを実施していくのか。具体的な事例をもとに考えます。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>コーディネータ</span> <span>実践発表</span> </div> 中川一史(放送大学教授) 岩崎有朋(鳥取県・岩美町立岩美中学校教諭) 朝倉一民(札幌市立屯田北小学校教諭)			
		<b>Bコース</b>			
	特別講演 ②	<b>学校における働き方改革の論点と課題 — 中教審の審議と答申</b> 小川正人(放送大学教授)文部科学省中央教育審議会副会長、学校における働き方改革特別部会長			
15:30~16:05	<b>展示・体験(学習活動ソフトウェア体験コーナー、ICT教育環境整備コーナー)</b>				
		<b>Cコース</b>			
16:05~ 17:20	情報教育 ②	<b>小学校プログラミング教育の現状と展望</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アンプラグド・プログラミングの学習活動のねらいと留意点</li> <li>■ プログラミング的思考と教科の学び</li> <li>■ プログラミング教育実施に向けた準備の進め方</li> </ul> 小学校プログラミング教育は、2020年度から本格実施となります。教科・領域のねらいと絡めるとどのような学習活動が実施できるか、そのために必要となるICTを含めた学習環境をどのように整えるか等、課題も多い。本セッションでは、それぞれの立場から課題に対する議論を深めていきます。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>コーディネータ</span> <span>実践発表</span> </div> 佐藤幸江(金沢星稟大学教授) 佐和伸明(千葉県・柏市立手賀東小学校校長) 曽根原和明(東京都・板橋区立上板橋第四小学校教諭) 津下哲也(岡山県・備前市立香登小学校教諭)			
		<b>Dコース</b>			
	事例・ 実践報告 ICT活用と 効果	<b>生徒一人一台のコンピュータ環境の運用と今後の展望</b> 道旗宏悦(学校法人大阪初芝学園 初芝富田林中学校・高等学校教諭) 本校では2003年9月に全館無線LAN整備を実施し、その後、全教室への電子黒板の設置、全生徒一人一台のコンピュータ運用を行っています。それにおける環境構築や課題、その解決手段、授業での活用状況、生徒の変容、今後の課題と展望等について発表します。			
		<b>タブレットを指導用に活用する「堺スタイル」の整備の詳細と効果</b> 浦嘉太郎(大阪府・堺市教育委員会主任指導主事) 堀市では、児童生徒一人一台の情報端末整備の前段として平成25年度から、教員が授業改善を目的としてタブレット端末と大型デジタルテレビを組み合わせて活用する「堺スタイル」の整備と活用を進めており、今年度は全ての中学校に整備を行いました。この「堺スタイル」の整備手法とその効果、今後の展望についてお話しします。			
		<b>校務の情報化に向けた取り組みについて</b> 高橋大輔(大阪府・枚方市教育委員会指導主事) 本市では平成27年度に校務支援システムの導入を行い、成績情報等の一元管理を行っています。また、平成29年度に総務省の「情報セキュリティの強靭化」に伴い、ネットワークの分離化を実施しました。現状及び今後の展望について発表します。			



中川 一史

放送大学教授